

人に優しい移動通信端末

Realizing People-Oriented Mobile Communication Terminals

鈴木 秀夫
SUZUKI Hideo

移動通信端末は、ビジネス活動や社会生活、友人や家族間のコミュニケーションの手段として、急速な勢いで社会に浸透してきています。1998年に、わが国の携帯電話(PHS含む)加入数(累積)は4千万台を超え、年間の移動通信設備投資の見込額は36,930億円に達しました。移動通信の産業の裾野は、半導体、ディスプレイ、電池などの部品を含めた端末や、ネットワーク機器、移動通信サービスなどに大きく広がっています。移動通信端末の社会への浸透と併せると、移動通信が、社会基盤としてきわめて大きな役割を担うものになっていることがわかります。

当社は、人と接する移動通信端末に力を入れています。わが国のPDC(Personal Digital Cellular)・PHS、米国のcdmaOne^(注1)・AMPS(Advanced Mobile Phone Service)、欧州のGSM(Global System for Mobile Communications)など、世界の主要なすべての方式にわたって、端末や半導体部品を提供しています。国内では、全移動通信事業者に移動通信端末を納入し、また米国では、当社商品を98年までに累計で700万台出荷し、米国政府から日米産業協力の感謝状をいただきました。

さて、今日移動通信は、“聞く・話す”に加えて“読む・見る”も実現したマルチメディア・モバイルコミュニケーションへと向いつつあります。移動通信端末とパソコンの二つの文化が本格的に融合するIMT-2000(International Mobile Telecommunications-2000)の時代がすぐそこにきています。マルチメディア・モバイルコミュニケーションによって、人は、人とより快適に交流し、マルチメディアコンテンツを楽しみ、きたるべきエレクトリックコマースも便利に利用できるようなるでしょう。移動通信にまた一段と高い期待が寄せられています。当社は、マルチメディア・モバイルコミュニケーションを支える技術開発にも積極的に取り組んでいます。

移動通信端末は、2000年には国内で6千万台に達するとの予測があります。世界の子供達が幼稚園や小学校に入るときに、小さく軽い移動通信端末を両親から手渡されて身につける日も近いことでしょう。子供からお年寄りに至るまで、またビジネス活動や社会生活のそれぞれのシーンの中で、使いやすく身につけやすく人に優しい移動通信端末を当社は広く世界に提供してまいります。

(注1) cdmaOneは、CDG,Inc.の商標。